環境経営レポート

自 2023 年 4 月 1 日～至 2024 年 3 月 31 日

（第 21 版　2023 年度）

K.M MIYAMOTO 宮本組

2024 年　9 月　1 日　発行
2024 年 10 月 22 日　改訂

目　次

1.組織概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P2～P3

2.環境管理組織図・・・・・・・・・・・・・・・　P4

3.環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P5

4.環境への負荷実績・・・・・・・・・・・・・・　P6～P8

5.主要な環境活動計画の内容・・・・・・・・・　P9～P11

6.環境活動取組結果の評価・・・・・・・・・・　P12～P13

7.環境目標の設定・・・・・・・・・・・・・・・　P14

8.環境関連法規への違反、訴訟などの有無・・　P15

9.外部からの指摘や苦情の有無・・・・・・・　P15

10.代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果・・・　P16

1．組　織　概　要

1‐1　事　業　者　名　：　株式会社　宮本組

1‐2　代　表　者　名　：　代表取締役　宮本　活秀

1‐3　所　在　地

本社・本店　：　〒672‐8080
兵庫県姫路市飾磨区英賀宮町一丁目 17 番地
TEL 079-237-0111、FAX　079-237-0118

支　　店　：　東北支店・関東支店・東京支店・名古屋支店・大阪支店・九州支店

営　業　所　：　神奈川営業所

1‐4　創　業　：　1951 年 4 月 10 日

1‐5　創　立　：　1957 年 3 月 29 日

1‐6　資　本　金　：　9,800 万円

1‐7　主たる事業　：　土木一式工事業、建築一式工事業

1‐8　建設業者登録票　：　国土交通大臣(特‐6)第 1499 号(令和 6 年 4 月 5 日許可)

1‐9　ISO 品質システム登録　：　JSAQ816（2000 年 6 月 1 日登録）
（有効期限 2027 年 5 月 31 日）

1‐10　ISO 労働安全システム登録：　JSAO052（2021 年 6 月 14 日登録）
（有効期限 2027 年 6 月 13 日）

1‐11　エコアクション 21 認証・登録　：　0000613（2006 年 2 月 17 日登録）
（有効期限 2026 年 2 月 16 日）

1‐12　事業規模及び各担当部署

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売 上 高	百万円	26,730	23,083	24,343	20,606
全従業数	人	324	334	308	279

事業所・事業所所在地・床面積・担当部署・連絡先

事業所	所在地	床面積(m²)	担当部署	電話番号
本社・本店	兵庫県姫路市飾磨区英賀宮町一丁目17番地	2,374	総務部 安全品質環境部	079-237-0111
矢倉機材センター	兵庫県姫路市飾磨区矢倉町一丁目96番1号	499 （敷地面積609）		
関東支店	千葉県君津市人見1040番地12号	1,118	安全品質管理課	0439-52-3636
東京支店	東京都千代田区神田錦町二丁目1番5号	56	支店	03-3518-9009
名古屋支店	愛知県東海市中央町四丁目32番地	410	安全品質管理課	0562-32-1165
九州支店	福岡県福岡市中央区大名一丁目8番12号	64	支店	092-721-6711
東北支店	宮城県仙台市青葉区中央四丁目7番17号	41	安全品質管理課	022-722-2251
大阪支店	大阪府大阪市中央区平野町三丁目4番9号	114	支店	06-6206-4141
神奈川営業所	神奈川県伊勢原市大住台一丁目3番3	458	営業所	0463-74-5471
床面積合計		5,134	—	

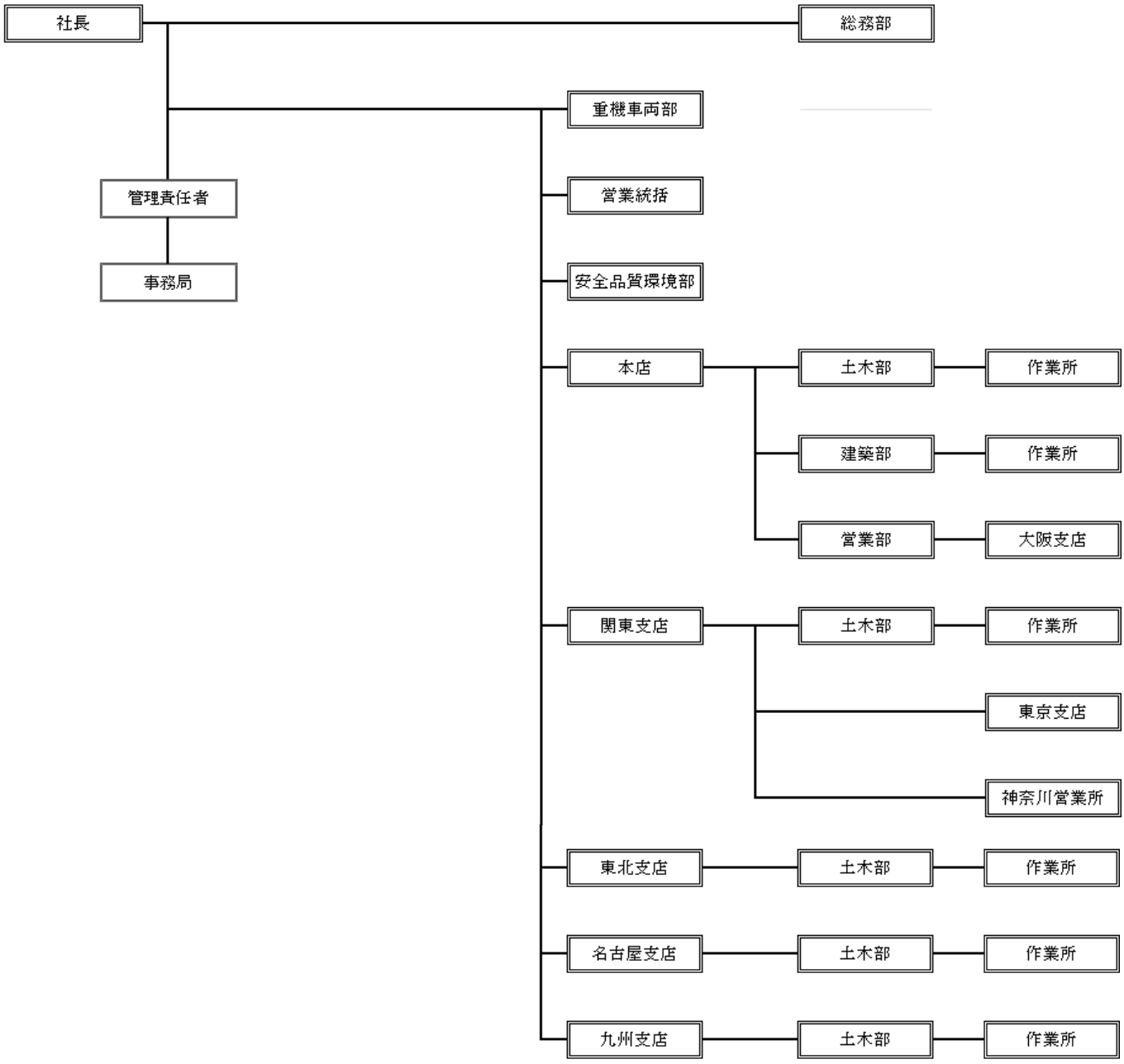
1‐13　認証・登録の対象範囲：　本社・本店、東北支店、関東支店、東京支店、名古屋支店
九州支店、大阪支店、神奈川営業所

1‐14　事業年度　：　4月1日　～　翌年　3月31日

1‐15　責任者
環境管理責任者　：　現在空席

1‐16　環境管理組織　：　2.環境管理組織図　参照

2. 環 境 管 理 組 織 図


社長
総務部
重機車両部
管理責任者
営業統括
事務局
安全品質環境部
本店
土木部
作業所
建築部
作業所
営業部
大阪支店
関東支店
土木部
作業所
東京支店
神奈川営業所
東北支店
土木部
作業所
名古屋支店
土木部
作業所
九州支店
土木部
作業所

環境経営方針

基本理念

宮本組は建設工事の事業活動を通じ「電力・燃料の消費による二酸化炭素排出量の低減」「産業廃棄物の低減と分別の徹底」「環境にやさしい技術や機械の導入」を推進し継続的改善により環境に配慮した工事と環境の保全に積極的に取り組みます。

MIYAMOTOGUMI

基本方針

1. 環境に関する法令及び規則を順守します。
2. 環境配慮型建設機械を積極的に使用します。
3. ICT 技術を活用した施工計画を推進します。
4. 節電・節水と併せ一般廃棄物の低減に取り組みます。
5. 地域における美化・緑化・清掃運動を実践します。
6. 環境経営方針は環境活動レポートと共に社内外へ開示します。

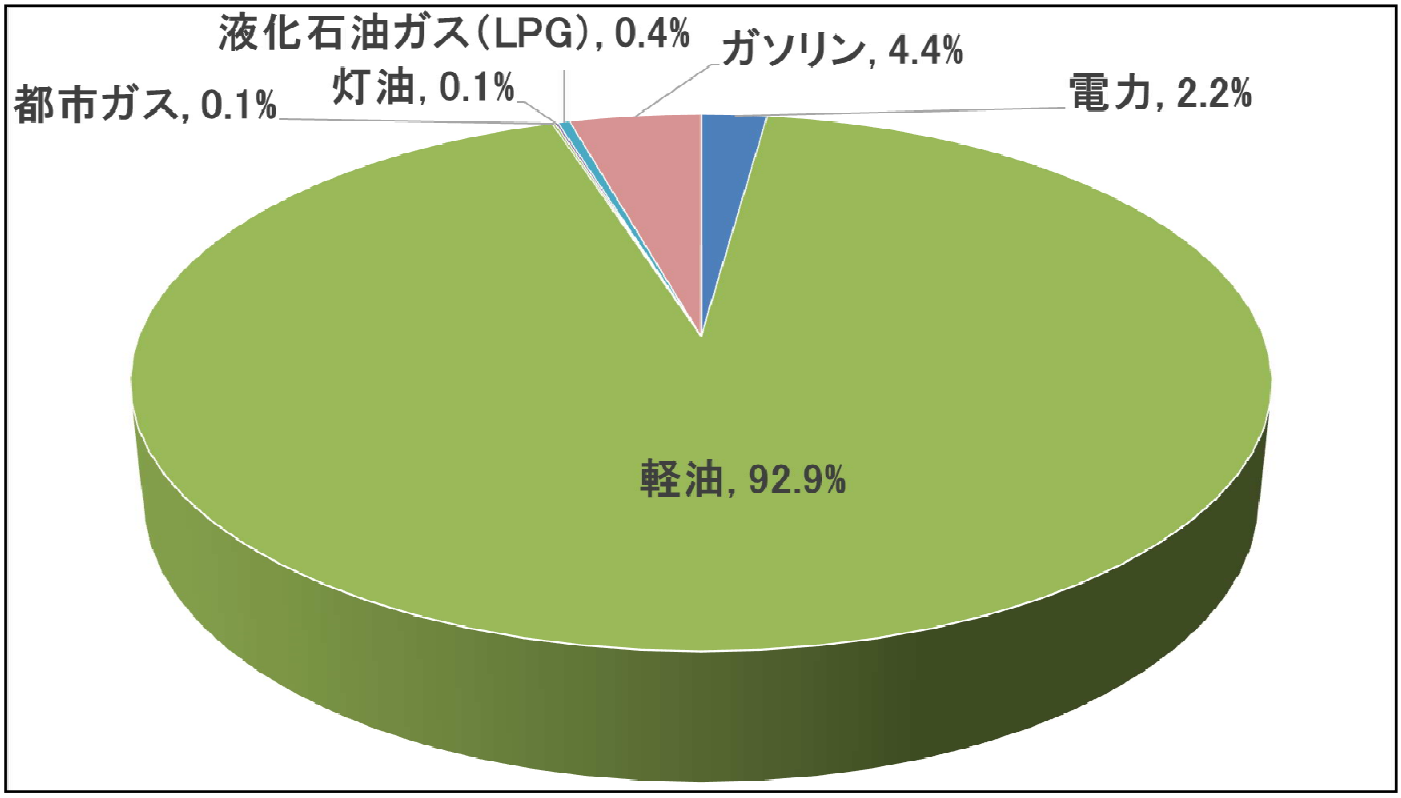
改訂日　２０２４年４月１日
株式会社　宮本組
代表取締役　宮本　活秀

4. 環境への負荷

弊社の業務と環境との関係、また弊社の活動で具体的にどれだけ負荷を与えているのか数値で捉えたものは下表のとおりです。

4-1.宮本組全社

項　目		単位	2021年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	電力	kWh	903,104	738,551	724,204
	ガソリン	ℓ	444,498	343,442	300,444
	軽油	ℓ	9,072,330	7,172,209	5,725,917
	灯油	ℓ	4,265	3,635	5,775
	都市ガス	m^3	4,337	5,470	5,370
	LPG	kg	38,372	23,590	22,987
CO_2 排出量	—	kg-CO_2	25,392,445	20,057,105	16,157,997
一般廃棄物排出量	—	kg	17,848	13,018	16,004
産業廃棄物排出量	総排出量	kg	60,100	1,228,560	213,401
	再資源化量	kg	0	1,145,530	99,577
	最終処分量	kg	60,100	83,030	14,295
	再資源化率	%	0	93.2	46.7
水使用量	上水道	m^3	27,009	19,636	18,403



2023年度　CO_2 排出量内訳

4-2 各事業拠点

項　目		単位	本社・本店		東北支店	
			2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	電力	kWh	267,501	283,147	16,392	20,482
	ガソリン	ℓ	95,269	85,846	83,075	40,518
	軽油	ℓ	2,974,449	1,659,103	1,063,630	498,536
	灯油	ℓ	204	1,707	0	259
	都市ガス	m^3	3,694	4,079	201	463
	LPG	kg	951	1,354	341	152
CO_2 排出量	—	kg-CO_2	8,150,898	4,689,330	2,994,220	1,415,186
一般廃棄物排出量	—	kg	3,599	5,533	140	155
産業廃棄物排出量	総排出量	kg	1,228,560	200,919	0	0
	再資源化量	kg	1,145,530	91,955	0	0
	最終処分量	kg	83,030	9,435	0	0
	再資源化率	%	93.2	45.8	0	0
水使用量	上水道	m^3	5,525	5,905	375	588

項　目		単位	関東支店		名古屋支店	
			2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
エネルギー使用量	電力	kWh	205,668	212,589	185,764	145,063
	ガソリン	ℓ	66,622	83,260	67,538	61,672
	軽油	ℓ	1,399,267	2,240,008	1,155,592	954,815
	灯油	ℓ	1,862	1,644	1,569	2,165
	都市ガス	m^3	0	0	570	532
	LPG	kg	10,950	14,105	10,354	5,702
CO_2 排出量	—	kg-CO_2	3,969,979	6,225,137	3,313,502	2,740,755
一般廃棄物排出量	—	kg	790	622	6,928	6,022
産業廃棄物排出量	総排出量	kg	0	0	0	12,482
	再資源化量	kg	0	0	0	7,622
	最終処分量	kg	0	0	0	4,860
	再資源化率	%	0	0	0	61.1
水使用量	上水道	m^3	6,103	6,026	6,178	4,409

項　目		単位	九州支店	
			2022年度	2023年度
エネルギー使用量	電力	kWh	63,226	62,923
	ガソリン	ℓ	30,938	29,148
	軽油	ℓ	579,271	373,455
	灯油	ℓ	0	0
	都市ガス	m^3	1,006	296
	LPG	kg	994	1,674
CO_2 排出量	—	kg-CO_2	1,628,505	1,087,552
一般廃棄物排出量	—	kg	1,561	3,672
産業廃棄物排出量	総排出量	kg	0	0
	再資源化量	kg	0	0
	最終処分量	kg	0	0
	再資源化率	%	0	0
水使用量	上水道	m^3	1,455	1,475

※集計年度は４月１日　～　翌年　３月31日で集計しています。

※東京支店、神奈川営業所は関東支店に含み、大阪支店は本社・本店に含んでいます。

※東京支店は、電気・ガス・水道については共益費で支払っているため数量を挙げておりません。

※購入電力のCO_2排出係数（kg‐CO_2/kWh）：東北電力 0.523、エフビットコミュニケーションズ 0.562、東京電力エナジーパートナー 0.462、ミツウロコグリーンエネルギー㈱ 0.493、中部電力ミライズ 0.472、Pint 0.457、大阪ガス 0.389、関西電力 0.418、北陸電力 0.574、大和ハウス工業 0.571、四国電力 0.535、九州電力 0.463、沖縄電力 0.772 の調整後係数（2017 年度実績）および ENEST でんき 0.512、ENEOS 0.459、アースインフィニティ 0.529（2022年度実績）を使用しました。

※作業所の内、共同企業体内でサブとして工事を行っている作業所についてはメインの業者が現場を管理するため対象外としました。

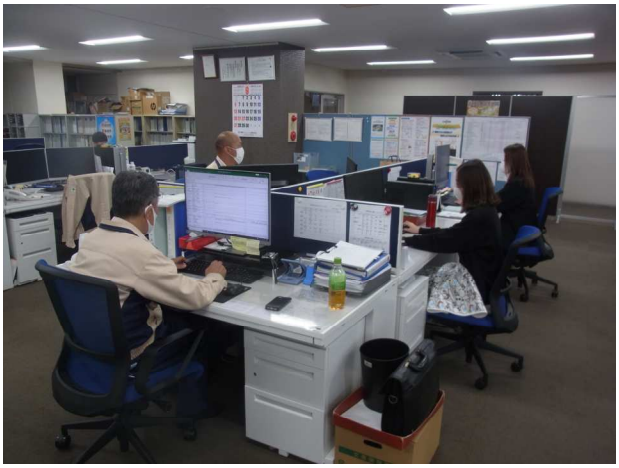
※軽油については協力会社重機の燃料消費量の内、当社で支払いを行った軽油のみ計上しております。

※EA21で対象とする化学物質の使用はありません。

5.主要な環境活動計画の内容

5－1　温室効果ガス排出量の削減への取り組み

宮本組として最も環境に負荷をかけるのは温室効果ガスの排出であり、その 92.9%が建設工事によって用いられるバックホウやブルドーザー、アーティキュレートダンプ（重ダンプ）等の建設用重機の燃料として使用される軽油によるものです。
そこで弊社では古くなった重機の入替は早目に行い、以前の物よりも環境性能が高い最新機種を揃えることで二酸化炭素の排出量抑制に努めています。（低騒音・低振動型）



本社や支店の事務部門でも温室効果ガスの排出量削減に取り組んでおり、空調温度の適温化や事務所内での服装を常設社員においてはカッターシャツにネクタイを原則とするが６月～１０月の夏季服装ではクールビズ（半袖・ノーネクタイ等）を採用し、12 月～3 月の冬季服装ではウォームビズ（セーター等の重ね着・ひざ掛け）を推奨しています。

また、人の移動に伴う各種エネルギー使用を抑制するため、会議などは極力オンライン上での複数人によるビデオ・音声会議を推奨しており社用車のハイブリッドカーへの切替えも随時完了しております。

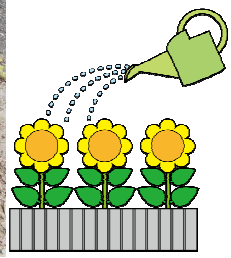
5－2　基本的な環境活動について

基本的な環境活動にも全社員が一体となって前向きに取り組んでおり、
① 照明はこまめに消す
② 社屋の照明を蛍光灯から LED に
③ 節水活動
④ 節ガス活動
⑤ 暖房器具の効率的な使用を啓発（灯油）
⑥ ごみの分別収集
⑦ 紙のリサイクル運動
etc.
を行っています。

5－3　地域貢献活動を通じて環境意識を醸成する

宮本組では地域貢献活動を通じて従業員の環境意識の向上を育んでいます。
具体的な活動としては毎週金曜日の始業前に本社周辺の清掃活動を全員で行っています。もちろん、社長もごみ袋を片手に率先してごみ拾いを行います。

周辺環境の美化・整備にも力を入れています。本社周辺の姫路市が管理する街路樹を市と協働して維持管理しており、弊社は植樹帯の除草や水やり、周囲の清掃を定期的に行っています。
また、景観が良くなると同時に、通行される皆さんにも楽しんで頂こうと、街路樹の根元に季節の花を植樹して育てています。



5－4　作業所での環境活動

作業所においても様々な環境活動への取り組みを行っています。

10t ダンプのエコドライブ教育風景

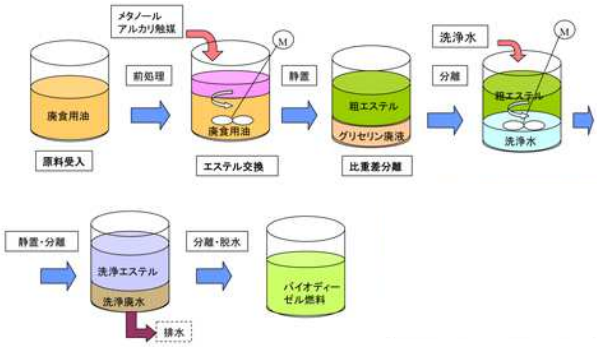
環境教育風景

作業所で働く人を対象にした安全運転、安全作業と併せて環境にやさしい建設現場づくりについて教育機会を設け、協力会社の皆さんと一体になって取り組んでいます。

二酸化炭素排出量の大部分を占める燃料についてもバイオディーゼル燃料(BDF)の利用促進を進めておりこの燃料は植物油からつくられるディーゼルエンジン用のエコロジー燃料のことです。ダンプ・重機などで軽油のかわりに燃料として使用でき、そのメリットは次の通りです。

バイオディーゼル燃料（BDF）を使用

(1)二酸化炭素排出ゼロカウント
　カーボンニュートラルで地球温暖化防止につながります。
(2)高いリサイクル率
　使用済みの天ぷら油からほぼ同じ量のバイオディーゼル燃料(BDF)を製造できます。
(3)一般的なディーゼルエンジンに使用できます
　エンジンは無改造で使用でき、燃費や走行性能も軽油とほぼ同等です。
(4)排気ガスがクリーンになります
　軽油に比べ、ススや硫黄酸化物が出ないため大気汚染の抑制になります。
(5)実感できる環境教育
　捨てられる天ぷら油で重機が動く様子を見ることで、資源循環を実感できます。



BDF の製造工程（アルカリ触媒法）

6.環境活動取組結果の評価

宮本組全社の目標に対する評価とコメント

項目			2020年度（基準年度）	2023年度 目標	2023年度 実績	2023年度 達成度	2023年度 評価
エネルギー使用量	電力	kWh	800,900	734,544	724,204	101.4%	○
		対基準年度	—	▲8.3%	▲9.6%	—	
	ガソリン	ℓ	368,025	343,986	300,444	114.5%	○
		対基準年度	—	▲6.5%	▲18.4%	—	
	軽油	ℓ	12,791,586	11,619,768	5,725,917	202.3%	○
		対基準年度	—	▲9.2%	▲55.2%	—	
	灯油	ℓ	13,415	10,015	5,775	173.4%	○
		対基準年度	—	▲25.3%	▲57.0%	—	
	都市ガス	m^3	4,021	4,184	5,370	77.9%	×
		対基準年度	—	4.1%	33.6%	—	
	LPG	kg	33,845	31,416	22,987	136.7%	○
		対基準年度	—	▲7.2%	▲32.1%	—	
CO_2排出量		kg-CO_2	34,602,856	31,724,888	16,157,997	196.3%	○
		対基準年度	—	▲8.3%	▲53.3%	—	
一般廃棄物排出量		kg	22,303	21,830	16,004	136.4%	○
		対基準年度	—	▲2.1%	▲28.2%	—	
産業廃棄物排出量		kg	2,142,348	2,142,000	213,401	1003.7%	○
		対基準年度	—	▲0.02%	▲90.3%	—	
水使用量	上水道	m^3	25,172	23,310	18,403	126.7%	○
		対基準年度	—	▲7.4%	▲26.9%	—	

【2024年度の取組】

「10.代表者による全体の評価と見直し・指示」に従い「5．主要な環境活動計画の内容」に記載した取り組みに沿って環境経営目標の達成に努めます。

①　エネルギー使用量及びCO_2排出量

電力消費量については、2020 年度の基準年度に対して 9.6%の削減という結果となり、目標の達成度は 101.4%で達成できました。

ガソリン消費量については、2020 年度の基準年度に対して 18.4%の削減という結果となり、目標に対する達成度は 114.5%で達成できました。

軽油消費量については、全国的に大型重機の稼働現場が減少した事で燃料使用量が低下しました。その結果、2020 年度の基準年度に対して 55.2%の削減という結果となり、目標の達成度は 202.3%で達成できました。

灯油消費量については、2020 年度の基準年度に対して 57.0%の削減という結果となり、目標に対する達成度は 173.4%で達成できました。

ガス消費量については、都市ガスが 2020 年度の基準年度に対して 33.6%増という結果となり、目標の達成度は 77.9%で未達となりました。LPG は 2020 年度の基準年度に対して 32.1%の削減という結果となり、目標の達成度は 136.7%で、都市ガスを使用する作業員宿舎の利用が増えた分、LPG の使用は減少しています。

CO_2排出量については、CO_2排出量の 92.9%を占める軽油消費量が大きく減少した結果、宮本組におけるCO_2排出量も大きく減少し、2020 年度の基準年度に対して 53.3%の削減という結果となり、目標の達成度は 196.2%で達成できました。

②　廃棄物等総排出量

廃棄物等総排出量については、一般廃棄物排出量は 2020 年度の基準年度に対して 28.2%減という結果となり、目標の達成度は 136.4%で達成できました。また、産業廃棄物排出量は大きく減少し、これは元請現場で産業廃棄物が発生する工種がほとんどなかったことによるものです。

③　水使用量

水使用量については、2020 年度の基準年度に対して 26.9%減という結果となり、目標の達成度は 126.7%で、作業員宿舎の利用が減ったことによるものです。

弊社の作業所における環境活動は、共同企業体でサブとして工事を行っている現場を除く全作業所を対象としています。

弊社の作業所の特徴としては、下請現場が多く元請業者からの現場事務所･資機材の支給で作業を行っているため水光熱費、廃棄物排出量の多くが自社の数量としては計上されていません。したがって、廃棄物排出量等は、弊社が元請業者として管理している作業所からの数量が主となっています。

7.環境目標の設定

7－1　宮本組全社

項　目			2020年度（基準年度）	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
エネルギー使用量	電　力	kWh	800,900	724,178	713,117	703,900	707,022
		対基準年度	—	▲ 9.6%	▲ 11.0%	▲ 12.1%	▲11.7%
	ガソリン	ℓ	368,025	341,497	338,168	335,783	336,786
		対基準年度	—	▲ 7.2%	▲ 8.1%	▲ 8.8%	▲8.5%
	軽　油	ℓ	12,791,586	11,438,936	11,368,631	11,361,777	11,014,270
		対基準年度	—	▲ 10.6%	▲ 11.1%	▲ 11.2%	▲13.9%
	灯　油	ℓ	13,415	9,857	9,701	9,498	9,507
		対基準年度	—	▲ 26.5%	▲ 27.7%	▲ 29.2%	▲29.1%
	都市ガス	m^3	4,021	4,159	4,128	4,112	4,092
		対基準年度	—	3.4%	2.7%	2.3%	1.8%
	LPG	kg	33,845	30,999	30,466	30,066	27,326
		対基準年度	—	▲ 8.4%	▲ 10.0%	▲ 11.2%	▲19.3%
CO_2排出量		kg-CO_2	34,370,473	31,524,301	31,201,538	30,999,045	30,151,624
		対基準年度	—	▲ 8.3%	▲ 9.2%	▲ 9.8%	▲12.3%
一般廃棄物排出量		kg	22,303	21,753	21,621	21,551	21,546
		対基準年度	—	▲ 2.5%	▲ 3.1%	▲ 3.4%	▲3.4%
産業廃棄物排出量		kg	2,142,348	2,142,000	2,142,000	2,142,000	2,142,000
		対基準年度	—	▲ 0.0%	▲ 0.0%	▲ 0.0%	▲ 0.0%
水使用量	上水道	m^3	25,172	22,994	22,607	22,302	22,462
		対基準年度	—	▲ 8.7%	▲ 10.2%	▲ 11.4%	▲10.8%

8.環境関連法規への違反、訴訟などの有無

弊社に適用となる主な環境関連法規等

法律名		順守すべき事項	順守評価事項	順守状況
1	廃棄物処理法	・一般廃棄物及び産業廃棄物の適正な管理と排出	・委託先の許可有効期限確認 ・委託契約内容確認 ・マニュフェストの管理 ・廃棄物置場の適正表示 ・年間排出量の報告	○
2.	建設リサイクル法	・分別、再資源化、再生資源の使用、届出	・マニュフェストの管理 ・委託契約内容確認	○
3.	建設副産物適正処理推進要綱	・再生資源利用計画書の作成	・周知徹底の確認 ・記録の確認	○
4.	大気汚染防止法	・届出、計画書作成及び作業基準	・届出書の確認	○
5.	騒音規制法	・地域別騒音基準の順守	・騒音測定、低騒音機械の使用	○
6.	振動規制法	・地域別振動基準の順守	・振動測定、低振動機械の使用	○
7.	自動車 NOx・PM 法	・窒素酸化物(NOｘ)，粒子状物質(PM)対策	・届出書の確認	○
8.	工業用水法 ビル用水法	・自治体の定める許可基準	・届出書の確認	○
9.	オフロード法	・適合証明	・適合証明の確認	○
10.	河川法	・届出	・沈砂池の設置、監視	○
11.	排出ガス対策型建設機械普及促進規程	・排出ガス対策型機械の使用	・現場での確認	○
12.	建築基準法	・石綿含有建材の使用禁止 ・クロルピリポス添加建材の使用禁止 ・ホルムアルデヒドに関する規制	・届出書の確認 ・現場での確認	○
13.	消防法	・市町村条例の確認	・届出書の確認	○
14	浄化槽法	・保守点検、清掃、水質定期検査の実施	・検査、点検記録の保管	○
15	火薬類取締法	・火薬使用量の確認	・火薬の消費と貯蔵の管理	○
16	フロン排出抑制法	・フロン類使用機器の点検	・簡易点検の実施 ・点検記録の保管	○

大気汚染物質、有害廃棄物の排出のみならず関連法規の順守について 2024 年 4 月 3 日、自主確認の結果、法令順守されており過去 3 年間において関係機関等からの指摘もありませんでした。

9.外部からの指摘や苦情の有無

環境影響に関して、外部からの指摘や苦情はありませんでした。また、訴訟などもありませんでした。

最後に、本書及び付属文書はエコアクション 21 建設業向けガイドライン 2017 年版に基づいて作成いたしました。

10.代表者による全体の評価と見直し・指示

2023 年度については、環境負荷の目標は都市ガス以外で達成できました。ガスの使用目的としては、現場社員や作業員の宿舎での使用となっており、昨年度に比べて都市ガスを使用する宿舎が増え、その分 LPG を使用する宿舎が減ったことが要因となっています。それは本書に記載している都市ガスと LPG の使用量を見てもわかる通りです。そして都市ガスの増加量と LPG の減少量を比べるとガスの使用量自体は減少していると言えます。

都市ガス以外の項目については全て目標を達成できており、中でも二酸化炭素排出量は達成率196.2%と大きく排出を減らしました。この要因としては当社における二酸化炭素排出量の92.9%を占める軽油の使用量が大きく減少したためで、大型重機を用いた工事案件が近年減少傾向にあることに起因しています。また産業廃棄物の排出量も大きく減少しており解体を伴う工事がなかったためです。

このように受注した工種や工事量によって、その年度の環境負荷（特に軽油と産業廃棄物）は大きく影響を受けることになり年度ごとの実績数値だけの単純な比較は難しいと言えます。

話は変わりますが、建設業は基本的に屋外で行う仕事です。近年は地球温暖化の影響で夏の気温が年々高まっており熱中症への対策には余念がありません。それでも毎年多くの方が熱中症により病院で治療を受ける事態となっています。この地球温暖化を止めることは自分たちの職場環境を快適にすることにも繋がると当社の社員や協力会社の皆さんへ啓発を行っていますが意識の高まりを実感できるような手ごたえはまだ得られていません。

少しでも皆さんに関心を持っていただけるよう、これからも地道な啓発活動を続けていこうと思っています。

また会社としても、どのようにすればゼロカーボンや循環型社会の構築に寄与できるか常にアンテナを広く張って情報をキャッチしていきたいと思います。特に建設機械の低炭素性能や新たに開発される低炭素素材に関する情報には特に注視していき当社でも取り入れることが可能なものについては積極的に取り入れていきたいと考えています。

	変更の必要性の有無	指示事項
環境経営方針	無	―
環境経営目標・環境経営計画	無	拠点ごとの進捗を管理し周知すること
実施体制	無	―

2024年　9月　1日
株式会社　宮本組
代表取締役　宮本　活秀